

第二十四回帝國議會 關稅定率法輸入稅表中改正法律案委員會會議錄(速記)第二回

會議

明治四十一年二月二十四日午前十時三十分開議

出席委員左ノ如シ

野田 卯太郎君	中西 光三郎君	鈴木 藤三郎君
日向 輝武君	山本 幸彦君	河上 英君
青柳 信五郎君	神崎 東藏君	佐藤 伊助君
山口 達太郎君	東尾 平太郎君	安田 勳君
駒林 廣運君	持田 若佐君	野尻 邦基君
大竹 貫一君	橋本 久太郎君	

出席政府委員左ノ如シ
大藏省主税局長 櫻井鐵太郎君

本日ノ會議ニ上リタル議案左ノ如シ
關稅定率法輸入稅表中改正法律案

○委員長(野田卯太郎君) 唯今ヨリ開會シマス

○安田勳君 本案ハ誠ニ簡單デゴザイマスガ、能ク政府ノ御説明ヲ伺ヒマセヌケレバサツ
パリ分リマセヌ、殊ニ此案ノ詳細ノ御説明ト内地ノ石油稅ニ關シマシテ、先達本會デ
決定致シマシタ石油稅ガ、如何ナル影響ヲ及ボスカ、又外國カラ輸入スル原油ニ對シ
テ、如何ナル關係ヲ以テ此關稅定率ノ改正ガ必要デアリマスルカ、其要點々々ヲ詳細ニ
政府委員ヨリ御説明ヲ願ヒマス

○政府委員(櫻井鐵太郎君) 此改正案ノ理由ハ誠ニ簡單デ、現行ノ稅表中礦油稅
ニ權衡ヲ得ザルモノアルタメ、之ガ改正ヲ要スルコトナッテ居ルデアリマスガ、其現行稅表ノ
權衡ヲ得ザル理由改正ヲ必要トスルコトノ理由ヲ一應説明申上ゲタイト存ジマス、現行
ノ礦油ノ輸入稅ハ稅表中ノ百七十二ニ規定サレテゴザイマス、百七十二項ニハ「礦油
(原油ヲ除ク)ト斯ウナッテ居リマス、サウシテ礦油一、二、三、ト三ツニ分ケマシテ、各
稅率ガ極デ居リマスデ、百七十二項ノ礦油ノ中ニハ原油ヲ除クトアリマスカラ、今日ノ
トコロ原油ハ百七十二項ヲ適用セラレズ、百七十六項ノ「其他ノ油」之ヲ適用シテ從
價二割、斯ウ云フ風ニナッテ居リマス、ソコデ現行ノ原油ナルモノハ從價二割、サウシテ
原油以外ノ礦油 礦油ノ中ニハ今日デハ第一ニ輕油、第二ニ燈油、第三ニ重油
ト、斯ウ三ツニ分ケテ稅率ガツレク規定ニナッテ居リマス、此現行ノ礦油ノ稅率ノ中、
第二ニ當ル燈油、即チ「ランプ」ノ油、是ガ普通ニ謂フ石油デス、此石油ノ稅率ハドウ定
マッテ居ルカト云フト、十米「ガルロン」毎ニ九十六錢ト斯ウ云フ稅率デアリマス、ソコデ九
十六錢ト云フ從價稅ハドウカラ算出致シタカト申シマス、三十七年マデハ二割ノ稅率
デアッタデス、燈油即チ石油デスナ、二割ノ稅率デアッタモノガ戰爭ノタメニ二割増徴サ
レテツマリ四割トナッタ、第一次ノ増徴ノ時ニ二割増率サレテ四割ニナッタ、ソレカラ二十
八年ニナリマシテ、モウ一回増徴セラレ、更ニ二割、即チ今日ノ九十六錢ト云フ增率ハ、從
價ノ五割カラ算出サレテ居ル形ニナッテ居リマス、斯ウ云フ譯デ普通「ランプ」油即チ石

油ハ從價ノ五割カラ出テ居ル、一方ニ原油ノ方ハ從來カラ二割トナッテ居ッタデアリマ
ス、ソコデ今日此原油ト燈油トノ比ベテ見マスルト、二者ノ間ニドウモ餘リ權衡ヲ失ッテ
居ルヤウニ考ヘラレ、其權衡ヲ失ッテ居ルト云フコトハ、今日俄ニ突然思ヒ着イタノデハ
ゴザイマセヌノデ、既三十九年即チ二十二議會ニ關稅定率稅表ノ改正ヲ提出致シマ
スル時ニ、既ニ原油ト燈油トノ稅率ト云フモノガ、此儘デ將來押通シテ行ク譯ニ行クマイ
ト云フ說ハ、當局者中ニモ起ッタデアリマスガ、二十二議會ノ頃ニハマダ原油ナルモノ
ヲ外國カラ輸入シタ例ガナイノデアリマス、如何ナルモノガ輸入サレルカ、又原油ノ產出
シマスル亞米利加、布哇、其他外國ノ原油ノ狀況ト云フモノガ當時ニマダ詳シク調カ着
キマセナカッタタメニ、先ヅ暫ク是マデ通リニシテ置カウ、唯想像ヲ以テ稅率ヲ極メテ譯ニ
行カヌカラト云フノデ、二十二議會ニハ原油ニ付テハ別ニ改正案ヲ提出シナカッタデア
リマス、ソレカラ以後政府ノ方デハ原油ノ調查ヲ致シマシテ、昨年アタリハ亞米利加
及布哇「スマトラ」方面ニハ出シマシテ原油ノ調查ヲ致シマシタ、所ガ此原油ナルモノ
ハ其後輸入シテ參ルコトニナッタ、段々ト外國ノ原油モ來ルシ、又現實輸入シテ參ル原
油ニ付テモ研究ヲ致シマシタ、トコロデ考ヘテ見マスルト、ドウシテモ此原油ノ從價二割ト
云フテ其儘ニシテ置イテハ、他ノ礦油等ノ稅率ト鈞合ガ着カナイ、鈞合ガ着カナイ結果
ハドウナルカト申シマス、ツマリ原油ノ稅率煙油ニ比シテ輕キニ失シテ居ルタメニ、第一
ニ政府ノ恐レマストコロハ、今日デハ石油即チ煙油ニ依ッテ少ナカラヌ海關稅ヲ得テ居
ル、約六百萬圓——五百何十萬圓デスカラ、圓ク申シテ六百萬圓ト云フ宜イ、此石
油ノ輸入稅ト云フモノガ此儘ニシテ置クトスト減ツデシマフ、即チ其減ルト云フ理由ハド
ウ云フコトデアアルカト申シマス、精製シタ石油ノ代リニ原油ヲ輸入スル、原油ヲ輸入シテ
日本デ精製スル原油ノ中ニ含シテ居ル所謂煙油即チ石油ノ分量ハ少クナイ、ソコデ石
油ヲ輸入シテ煙油ヲ製造スルモノト假定致シマス、原油ノ中カラ約百分中
四十五ガ煙油ニナルト假定致シマス、原油ヲ輸入シテ煙油ヲ製スル方ガ利益ニナル、
一方ノ燈油ノ五割即チ九十六錢ニ比シテ頗ル輕イ稅ニ當リマス、サウ云フ風デアリマス
カラ、將來ニ於テハ石油ノ輸入ニ代リニ原油ノ輸入ヲスルヤウニナル、原油ノ輸入稅ハ
從價ノ二割デアリマスカラ、原油ノ方デ輸入スルコトニナルト、政府ニ於テ石油カラ得テ居
ル輸入稅ノ差三割ト云フモノガ、關稅ノ收入上減ツデシマウト、斯ウ云フコトニナルノ恐
ガアリマス、デ今日ノ如キ時ニ於テ關稅ノ收入、石油ノ輸入稅ニ依ッテ五八百萬圓
近イモノガ、左様ニ少クナルト云フコトハ容易デナイコトデアラウ、モウ一ツハ關稅ノ輸
入ハ唯今申上ゲタル通りデアリマス、同時ニ此儘ニシテ置クト、御承知ノ通り內國ノ
ハ全國ノ石油ノ消費高ノ即チ三分ノ一ガ今日日本デ出來テ居ル、此三分ノ一ノ石
油ガ出來テ居ル此内地ノ石油業ガ、將來如何ニナッテ往クカト云フコトヲ考ヘテ見
ナケレバナラヌ、デ關稅ト云フモノハ、單ニ內國ノ產業ヲ保護スルガ單一ノ目的デアイ
ト云フコトハ申スマデモナイノデアリマス、ケレドモ關稅ヲ定ムルニ當ツテハ、內產外產ト
ノ鈞合ヲ見ナケレバナラヌコトハ勿論デアリマス、今日ノ場合案テ置ケバ、原油ノ輸入

稅ハ二割ト云フ輕イ率ヲ這入ッテ來ル、内地ニ於テ精製シテ内地ノ今日マデ段々發達シテ來タ石油事業ガ、是ガ爲ニ外ナラヌ影響ヲ被ムルノデアラウ、内地ノ石油業ナルモノヲ或ル側ニ於テハ、將來ニ見込ナシト云フ誠ニ悲觀說ヲ唱フル者モアリマス、ケレドモ今日マデノ石油業ノ發達シテ居ル狀況ヲ考ヘテ見マスルト、吾々ノ考デハ、決シテ將來最早發達ノ餘地ノナイモノデハナイ、將來大ニ伸ビル餘地ガアル事業ト思フ、而シテ又其石炭業ニハ少ナカラヌ資本ガ今日マデ投入サレテ居ル、之モ見方ニ依ッテ違ヒマセウケレドモ、先ヅ二千万以上ノ金ガ資本ニ投セラレテ居ルト云フ、内國ノ産業ノ中デモ重要ナル産業デアリマス、此産業ノ將來ノ發達ヲ害スルヤウナ具合ニ關稅ノ定率ヲ極メテ其儘ニシテ置クコトハ往カナイ、先ヅ是ハ大體現行ノ關稅率ノ燈油ト云フモノ、比例ヲ取ッテ、石油ノ稅率ヲ適當ニ定メルガ宜シカラウ、斯ウ云フコトデ大體石油ノ稅率ヲ改正スルコトニナッタ次第デアリマス、ソレデ其改正ヲ致スニ就キマシテモ、唯今申上ゲタヤウナ趣意デアリマシテ、内外產ノ權衡ヲ取ルコトハ重要ナル問題デアリマスカラ、原油ノ現行輸入稅率ガ低イト雖モ無暗ニ之ヲ高クシ、外國カラ最早原油ニ入レス、内地デ製油事業ヲヤテ居ル、到底引合ハヌ、事業ガ成立タナイ、斯ウ云フヤウナ程度ニ原油ノ稅率ヲ高メルコトハ決シテ宜クナイコト、思フ、吾々ノ茲ニ改正案トナッテ出テ居ル稅率ニ依リマスレバ、外國カラ原油ヲ輸入シテ、之ヲ内地ニ於テ精製シテ燈油ヲ造リ、又其他ノ油ヲ製造シテ事業ヲ經營スレバ、決シテ投資シタ資本ニ對シテ、事業ノ利益ガナク到底事業ハ廢滅ニ歸スルヤウナ事ニ立到ラスト云フコトヲ、私共確信シテ、内外ノ權衡ヲ得ル程度ニ此稅率ヲ定メタト云フ趣意デアリマス、ソレカラ又先刻御質問ノ中ニモアリマシタ消費稅トノ關係デアリマスガ、今度實施ニナリマセウツル消費稅ニ就テハ、少シモ關係ナイノデ、石油ノ方面カラ見マスレバ、内國產ノ石油ノ消費稅ヲ取り、外國カラ這入ル石油モ消費ヲ負擔スル、又原油ヲ輸入シテソレデ石油ヲ製造シテ内國デ賣ルコトニ致セバ、同ク石油消費稅ヲ負擔スルコトデアリマスカラ、石油ノ消費稅ト是トハ關係ハ毫モナイ、又或ル說ニ依リマス、今日石油ノ消費稅ガ新ニ設ケラレタ其處ヘ持ッテ來テ、原油ノ輸入稅ヲ上ゲルト、結局石油ノ値ガ上ガル、即チ消費者ガ苦ムト云フヤウナ御說ガ或側ニ出テ居リマスガ、是ハ少シ誤解ダラウト思フ、此原案ニ依リマスレバ、石油ノ稅率ハ從來ノ九十六錢ヲ動シハシマセヌ、石油ノ稅率ハ依然トシテ從來カラ九十六錢デアリマス、決シテ石油ノ稅率ヲ上ゲタガ爲メニ、石油消費者ガ將來又一層高イモノヲ使ハナケレバナラヌ眞ハ毛頭アリマセヌ、是ハ或誤解ヨリ起ッテ誤ト考ヘマス、大體唯今申上ゲルヤウナ趣意ヲ有チマシテ、此稅率改正ノ案ヲ立テマシタ、ソレデ此表ニ就テ少シク簡單ニ申上ゲテ置キマスガ、然ラバ其稅率ヲ如何ニ定メタカト云ヒマス、礦油、ソレヲ二ツニ分ケマシテ一ト一トシ、一ヲ原油、二ヲ其他、此ノ其他ト云フ方ハ別ニ今回現行ノ稅率ヲ變ヘルノデアリマセヌ、其他ハ現行ノ百七十七條ノ礦油一、二、三、之ニ當ルノデアリマス、ソレデ唯其他ノ方ニ改正ヲ加ヘマシタノハ、現行法ニ依リマス、一輕油、ソレニ括弧ヲ致シマシテ攝氏十五度ニ於テ比重〇・七三〇、斯ウ云フ比重ガ付イテ居リマス、今度ノ改正案ノ方ハ主トシテ輕油トカ、燈油トカ、重油トカ云フ名稱ヲ取ッテ過ギマセヌ、之ヲ取リマシタノハ却テ之ヲ存シテ置クコト、比重ハ是ハ重イケレドモ、是ハランプニ點ケル油ダカラ此稅率デナケレバナラヌ、或ハサ

ウテナイトカ云フ議論ガ起ッテ、却テ重油、輕油、燈油ト云フ名稱ハナイ方ガ宜カラウ、一定ノ溫度ニ於テ其比重ヲ以テ定メルノガ正確ニ往ク、斯ウ云フ趣意ヲ以テ唯輕油、重油、燈油ト云フ名稱ヲ廢シタニ過ギマセヌ、ソレ故ニ其他ト云フ方ハ現行ノ稅率トチツトモ變ラヌデアリマス、動キハナイト御承知ヲ願ヒマス、ソレデ主タル改正ハ原油ノ方デアリマシテ、此原油ハドウ云フ程度ニ稅率ヲ極メタカト申シマス、是迄這入リマシタ原油ヲ蒸溜致シテ見マシタ、又内國ノ越後方面カラ出ス處ノ原油モ出來ルダケ蒸溜シテ試驗シテ見マシタ、ソレデ百分中ニ四十五以上アルモノ即チ此重分ヲ含蓄シテ居ルモノヲ以テ、一ノ程度ニシタガ宜シカラウ、四十五以上一ヲ増ス毎ニ一錢ヲ加フ、是ハ四十五ヨリモット以上燈油分ノ出ルモノハ、ソレノ稅ヲ重クシテ行カナケレバ、石油ノ九十六錢ト釣合ガ取レマセヌカラデアリマス、四十五錢ト云ヒマスレバ、九十六錢ニ〇・四五ヲ掛ケルト、爰ニ四十三錢ト云フモノガ出テ居リマス、ソゴデ百分中四五以下ノ燈油分ノモノハ、原油ト「ガルロン」ニ付テ四十三錢、斯ウスレバ九十六錢ト云フモノトノ權衡ガ取レルト云フコトカラ、四十三錢ト極メタ譯デアリマス、又甲ノ方「二十ヲ超ヘサルモノ」是ハ極燈油分ノ少ナイモノ、燈油分ノ少ナイモノハ僅カシカ出マセヌ、百分ノ二十位シカ出マセヌ、即チ外ニ輕油トカ重油トカ云フモノガ出ルノデアリマス、二十ヲ超ヘザルモノト四十五以上ノモノト二段ニ致シマシタノハ、今日段々石炭ノ代リニ重油ガ燃料ニ使ッテ居ル、石炭ノ代リニ重油ヲ使ヒマスルト、イロノノ點ニ於テ經濟トナルトコロガゴザイマス、段々ト廣ク行ハレマシテ、船ニモ使ッテ鐵道ノ汽關車等ニモ使ハレテ居リマス、サウ云フ風ニ主トシテ重油ト云フト又多ク含ンデ居ル、即チ燃料ニナル油ヲ持テ來ルナラバ、ソレヲ日本ノ鑛業ノタメニ都合ヲ長クシテヤラナケレバナラヌ、サウ云フモノニハ一率ニ四十五以下ノモノニ四十三錢ヲ掛ケルノハ酷イカラ、燈油分ヲ二十分位シカ持テ居ラヌモノハ輕イ稅ヲ負擔サセ、内地ヘ持テ來テ重油ヲ主トシテ燃料ニ使フヤウニシヤウ、其他ノ便利ヲ與ヘテヤラウト、斯ウ云フ趣意デ二段ニ分ケタ次第デアリマス、ソレデ議案ニ「割溫蒸餾法ニ依リ」ト云フコトガアリマス、是ハ大變ムヅカシイコトデ、私共專問家デアリマセヌカラ詳シイ説明ハ申上ゲラレマセヌ、技師ノ説明ヲ聞キマスルト、溫度ヲ區劃シテ蒸餾スル方法デ、ソレハドウ云フ風ニ致シマスルコト云フト、先ヅ此處ニ原油ヲ釜ノ中ニ入レテ、最初ハ低イ溫度デ徐々ト蒸餾スル、段々々々溫度ヲ上ゲテ、攝氏ノ百二十度ノ溫度マデニ至ッテ、先ヅソコデ一分解スル、百二十度ヨリ低イ溫度デ蒸餾シテ蒸餾シテ出ル油ハ、即チ揮發油デアリマス、其揮發油ト云フモノハ先ヅ別ニ除ケテシマヒ、百二十度ニ溫度ヲ極メテ幾ラ蒸餾シテモ最早出ナイト云フトコロデ分解サセマシテ——百二十度マデノ溫度デ分解シタモノヲ別ニ取ッテ、今度百二十度ノ溫度ヲ段々上ゲテ二百七十五度マデ上ゲテ蒸餾シテ、其間ニ出タ油ハ何カト云フト、ソレハ丁度比重ガ零、八七五以下ノモノデ、ソレガ丁度石油即チ「ランプ」ニ使フ油ニ使ヘルノサウデアリマス、ソレデアリマスカラ百二十度カラ二百七十五度マデ上ゲテ、蒸餾サセテ出ルモノヲ皆集メテ、ソレヲドノ位出タカト云フ割合ヲ見テ、即チ其割合ガ百二十度カラ二百七十五度ノ間ニ蒸餾サセタ液、ソレハ石油ト見做スベキモノ、其割合ガ百分中四十五マデノモノ「ニ付テ十九錢四十五度以上、モット上ハ一ヲ増ス毎ニ一錢ヲ加フ、斯ウ云フコトニ

シテ、主トシテ「ランプ」油カラ比例ヲ取りテ原油ノ稅率ヲ極メル、斯ウ致シマスルト此處ニ原油ガ輸入シテ參ルト、此方法ニ依テ蒸餾シテ、其百二十度以上二百七十五度ノ間ニ蒸餾シテ出ル「ランプ」油ノ分量ガ、原油一石ノ中假リニ「ランプ」油五斗アレバ、即チ九十六錢ノ半分四十八錢ヲ掛ケテ、丁度「ランプ」油ト鈎合ガ取レル、此處ニ四十五度ト致シマスルト、四十三錢ト出ル譯デアリマス、斯ウ云フ譯ニ致シマス、原油ト原油ノ中ニ含シテ居ル燈油分ノ比例トノ權衡ヲ得ルヤウナ稅ヲ掛ケル、斯ウ致シマスルト先刻申上テヤウナ兩者ノ間ノ鈎合ガ取レマスカラ、精製シテ石油ヲ入レマシテモ、又原油ヲ入レテ日本精製致シマシテモ、何方デモ當局者ノ見ルトコロニ依テヤル話デ、結局關稅ノ收入ハ何方ニ參テモ變リハナイ、原油ヲ入レテ精製シテ、日本デ「ランプ」油ヲ作テモ、精製シテ油ヲ日本ニ持テ來テモ關稅ノ收入ハ毫モ影響シナイ、サウシテ同時ニ此位ノ程度ニ原油ノ稅率ヲ上ゲマスルト、外國產ノ原油ニ運賃ヲ掛ケテ、此稅率ヲ掛ケマスルト丁度内地ニ於テ今日行ハレテ居ル石油業者ガ、日本デ石油ヲ掘ッテ、——石油デアリマセン 原油ヲ掘ッテソレヲ精製シテ居ル事業ト、稍權衡ヲ得ル對等ニナル、サウ云フコトカラ此處ニ斯ウ云フ案ヲ出シマシタノデ、ソレデ此案ヲ作ルニ付テハ、原油ノ中ニ二百二十度マデノ低イ溫度トキニハ揮發油ガ出ル、ソレカラ續テ燈油ガ出ル、後トカラ重油ガ出ル、又其殘リカライロ／＼ノ副產物ガ出マスモ、此改正案ニ付テハ原油ノ中カラ出ル所、所謂揮發油輕イ油輕イ油ハ幾分カ出マスケレドモ、ソレハ別ニ稅金ヲ計算シテ居ナイ、何故ニサウスルカト云ヘバ、ソレハ原油ヲ輸入シテ内地デ石油ヲ製造シマスルニハ、タメデハ出來ナイ、相當ノ設備ト資本トヲ要シマスカラ、サウ云フ生產費ト無論掛カル故ニ、其邊ノ鈎合モ見ナケレバナラヌカラ、原油ノ中ニ含シテ居ル輕油、燈油、重油、ヲ皆計算シテ原油ノ稅率ヲ極メマスルト非常ニ高イモノニナッテ、ソレコソ内地ニ於テハ最早原料ヲ輸入シテ燈油ヲ製造スルト云フコトハ出來ナイコトニナリマスカラソレハ餘リ酷イ、決シテ此稅率ノ改正ニ依リマシテ、原油ヲ外國カラ輸入シテ、内地デ輸入ノ精製事業ガ成立ツト云フコトデ、禁止的ノ稅ヲ掛ケヤウト云フノハ先刻申上タル通りノ趣意デアリマス、禁止的ノ稅ヲ掛ケルノハ趣意デナイト云フノデアリマスカラ、唯今申上ゲマスルヤウナ原油ノ中ニ含ムテ居リマスニコロノ、總ノ油ノ稅率ヲ皆計算シテ、原油稅ヲ定メルコトニ致サナカッタ譯デアリマス、大體申上ゲタヤウナ次第デアリマスカラ、尙御質問ニ依ッテ御答ヲ致シマス

○東尾平太郎君 今承リマスレバ、此鑽油ノ石炭ト同様ニ施行スルモノハ、九万六千ノ關稅率ヲ取テ居ル、故ニ權衡ヲ得ナイカラ四十八錢ガ相當デアルガ、先ツ四十五錢ヨリ出ナイカラ四十三錢ヲ賦課スルト云フ、石油ト同等ニ稅ヲ取ルト云フ御話ガアリマスガ、サレバ第二十二議會ニ關稅定率法改正ノ時ニ關稅賦課ノ方針ト云フモノハ、當時ノ政府委員ヨリ述ベラレタ、其時ノ說明ヲ記憶致シテ居リマスガ、成ルベク原料ハ内地工業保護ノ爲メニ、半製品ハ相當ノ課稅ヲスル、精製品ニハ輕イ成分ニ向ッテ重課稅ヲスルト云フヤウナ方針ヲ執テ居ル、然ルニ今ノ說明ヲ聞イテ見マスルト、原料モ精製油モ同ジク現行ノ率ニ依ッテ之ヲ課稅スルト述ベラレタガ、關稅課稅ノ方針ヲ變更サレタカ否ヤ、之ヲ伺ヒタイ、又一方ニハ六百万圓ヲ其儘ニ放ッテ置ケバ、今後六百万圓減ル故ニ、斯ノ如キ稅ヲ課スルト云フ說明ヲ承ッタヤウデアリマスガ、六百万圓ノ關

稅ノ收入ハ減ズルカハ知リマセヌガ、原油モ入レバ——餘計ニ入レバ貨幣ノ流出ガ少カラウト思ヒマスガ、殆ド二千万圓ノ金貨流出ノ患ガアラウト信ジマス、政府ハ唯稅サヘ取レバ貨幣ノ流出ハ幾ラ有ッテモ構ハナイ、原料ヨリ精製品デ輸入ガ過ギレバ、貨幣ノ流出ハ國家ノ害ニナラヌト云フ觀念デアルカ否ヤ、其邊ノ伺ヒタイ

○政府委員(櫻井鐵太郎君) 唯今東尾君カラ御話ノ通り、二十二議會ニ於テ關稅定率法改正ノ際政府委員ヨリ御話ヲ申上ゲタト云フコトハ其通りデアリマスガ、又其考ハ今日變ッテ居リマセヌ、其時說明ヲ申上ゲマシタ通りニ原料品ハ何デモ無稅トスル、斯ウ云フヤウナ總括的ノ趣意ヲ以テ說明シテナイデアリマス、原料品ハ固ヨリ精製品ヨリハ輕クスベキモノデアルデ、我國ニ全ク原料ノナイモノ——我國ニ全ク原料ノナイモノデアレバ、是等ハ其通り二重トナッテモ宜イノデアル、我國ニハ相當ノ原料トスルト云フモノニ付テハ、是ハドウモ一概ニ之ヲ無稅トスルコトハ直ニ產業ニ影響ヲ及ボスモノデアル、ソレデ適當ノ處ニ稅率ヲ定メナケレバナラヌ、斯ウ云フ趣意デ、當初ノ說明ハ出來テ居ルヤウニ私ハ記憶シテ居リマス、ソコデ此油ニ付テ然ラバ私ノ說明シタ趣意ニ反スルカドウカト云フコトヲ申シマスルト、私ノ考デハ反スルコトハナイ、先刻申上テマシタガ、此原油ニ稅率ヲ定メマスルニハ、原油ノ中ニ當リ前ニヤリマスナラバ、原油ノ中ニ含有シテ居ルトコロノ總テノ成分ヲ見テ、輕油ナシ、燈油ナシ、重油幾ラ其他ノ副產物ガイクラ、各其稅率ヲ以テデスナ、而シテ原油ノ稅ヲ定メル、斯ウ云フコトニ致シマシナラバ、ソレハ東尾君ノ言フ通り精製品ト原油ト云フモノヲ——先ツ精製品ト原油トフ一向區別シナイヤリ方ハ斯ウ云フ風ニナリマスガ、吾々ノ計算ハ決シテサウデナイ、原油ノ中カラ出ル所ノ輕油ニ付テハ稅率ヲ見テナイ、重油ニモ見テナイ、又ビッチト云フモノガ出來マス、斯ウ云フモノモ見テ居ラナイ、其位ニ雙方ノ權衡ヲ見テ稅率ヲ計算シテ居リマスカラ、決シテ前來採ッテ居ル政府ノ關稅定率ニ定メル方針ヲ決シテ矛盾シナイ、ソレカラ唯今正貨云々ト云フ御說明ガアッタノハ、成程八百餘ノ精製品ヲ輸入致シマス、其値段ハ一千七八百万圓餘ノ値打ノモノデアリマス、成程其金貨ガ流出スルト云フコトハ、好マシカラザルコトハ御同感デアリマス、併シ一方ニ又吾々ノ考ハ目前デバカリデアルト云フ各位ノ御意見ガアルカ知レマセヌガ、今日ノ財政ノ基礎ヲ鞏固ニスルト云フコトハ、確實ノ租稅ノ收入ヲ待タナケレバナラナイ、確實ノ租稅ガナケレバナラナイト云フ、今日は等ノ收入ヲ減スルト云フコトヲ見テハ置ケナイ、關稅ノ收入ハ減ッテモ構ハナイト云フコトハ、ドウシテモ政府トシテハ捨テ、置ケナイ、其方法ニ相當ナル方ニ講ゼナケレバナラナイ、又是モ或人ノ見ル所ニ依ッテ違ヒマスカ知リマセヌガ、今日内地ニ原油ノ產出ハ在ル、石油モ需用高ノ三分ノ一ハ出來テ居ル、此產業ノ充分將來ニ發達シテ往キマシタナラバ、最早石油ノ輸入ト云フモノハ將來ハ無クテモ宜シイ、ソレハ二年二年ノ間ニ往クカ往カナイカ知レマセヌガ、サウナレバ最早石油ノ輸入ト云フモノハ要ラナクナリマセウ、關稅ノ收入モ無クナルデセウ、併ナガラ一方ニ於テ内地ニソレダケ相當スルトコロノ產業ガアレバ、是ハ誠ニ結構ナ話デアル、餘リ前ノ前マデ考ヘマス云フ、此問題ノ解決ハムダカシクナルト思フ、先ツ私ノ考デハ此兩者ノ間ノ權衡ヲ圖ルコトハ今日此關稅ノ收入ヲ確保スルニ必要デアル、同時ニ内地ノ產業ヲシテ、相當ノ發達ヲサセル境遇ニ立タセルト云フ爲ニハ、必要ナルコトデアラウト……

○神崎東藏君 チョット同ジコトヲ聞クヤウデスガ、内地ノ産業ヲ保護スルト云フコト、ソレカラシテ國庫ノ收入ヲ確實ニスルト云フコト、是ハ成程御尤ノ説明デアル、私モ其趣意ニ於テハ全然御同意ヲ表スル譯アリマス、サテ此國庫ノ收入ト云フ方ノ點カラ觀察致シマシテ、今御説明ノヤウニ假ニ日本ノ石油業ガ何年カノ後ニ非常ニ盛ニナツテ、外國ノ燈油モ一切輸入ガナイト云フコトニ假定致シマスルト云フコト、無論稅ノ無クナルコトハ分リ切デ居ル、ソノ時分ニハ内地ノ産業ハ發達スルト云フ御説明ダガ、内地ノ石油業ハ唯今ヨリ餘計ニ進歩シナイ、今全國ノ市場ニ二分一ダケノ漸ウ出來ルダケデ、統計ニテハ此七八年ノ間格別石油ノ產出ガ殖エヌト云フコトハ、一向見エテ居マセヌ、或ハ北海道、或ハ秋田、或ハ臺灣、或ハ山陰等ノ地方ニ石油坑ガアルノコトデ、其道ノ人々ハ非常ニ狂奔シテ見タガ、斯ウ云フ煙ガアツタカ、臭ガシタカ云フダケデ有利ナル石油事業ハ出來ナイト云フコトデ、唯今ハ殆ド絶望ノ發達ノ見込ガ少ナイノデアアル、故ニ例ヘハ三分二ノ精製燈油ガ輸入サレテ居ル、其精製燈油ト唯今起リツ、アル原油ノ輸入ニ依テ、燈油重油若クハ「ピッチ」トカノ製造ガ發達スルト假定シテ、サウシテ此原油輸入ノ事業ニ依テ、三分二ノ精製輸入ト云フモノガ、悉ク排斥セラレレ場合ヲ假定致シマスレバ、國庫ノ收入ハドウナリマスカ、吾々ノ研究スルトコロニ依レバ、原油ノ輸入ノ高ト云フモノハ、勿論精製燈油ノ輸入ノ高ヨリモ非常ニ餘計ナケレバ、ツマリ今日輸入サレテ居ル精製燈油ハ出來ナイ、故ニ從價二割ノ原油ノ輸入稅ヲ拂ッテ原油ヲ輸入シテ精製燈油ヲ造ル、是モハダカデハ賣レヌ、ヤハリ「プリキ」ノ罐ニ入レテ賣ラナケレバナラヌ、其「プリキ」ノ罐モヤハリ澤山輸入シナケレバナラヌカラ、是ニ對スル海關稅ヲ拂ハナケレバナラヌ、今一ツ會社ガ出來マスルナレバ、營業稅モ拂ウデアラウ、又所得稅モ拂ウデアラウ、海關稅モ拂フカラ、此三ツノモノヲ總計致シテ、サウシテ現在ノ燈油ノ輸入ノ海關稅ニ比較致シマスルト云フト、ツマリ燈油ハ全部原料輸入ノ製造業ニ依テ排斥セラレタト云フ曉ニハ、却テ國庫ノ收入ガ餘程増スト云フ計算ニナリマセウガ、サウ云フ計算ヲ大藏省ノ當局者ハシテ見タコトガアルカドウカト云フコトヲ伺ヒタイ、ソレカラ第二ニ産業ノ保護ト云フ方ノ點カラノ御説明ニ依ルト、今日ノ營業者ハ若シ原油ノ輸入者ガアツテ、今ノ儘テ原油ノ輸入者ガ、精製燈油ヲ製造スルト日本ノ今日ノ石油業者ハ倒レテシマウ、斯ウ云フ御説明デアツダガ、ソレニ付キマシテモ少シク疑ヒガアリマス、現ニ今私が申上ゲマシタ通り、日本ノ石油業ハ遲々トシテ少シモ進歩シナイ、三分一ノ境域ヲ漸ク保護シテ居ル位ダカラ、他ノ二分二ニ對シテ原油輸入者ガ精製燈ヲ販賣スルト云フコトニナレバ、決シテ其販賣ノ點カラ云ヒマシテモ、現在ノ石油業者ヲ害スルコトハアルマイト思フ、現在ノ石油業者ハ何千萬圓カノ資本ヲ投ジテ石油業者ヲヤツテ居ルガ、マダ其何百萬圓時代ノ產出ト今日ノ產出ト少シモ變テ居リマセヌ、而モ越後アタリ——尤モ越後ニシカナイガ、石油業者ノ仕事ヲ見エ見マスルト云フコト、石油業ヲヤツテ居ルバカリデハナイ、外ニ他礦山業ニモ手ヲ出シテ居ル、或ハ鐵工場ヲ設ケテ居ル、或ハ造船業ヲヤツテ居ル、イロ／＼手ヲ擴ゲテヤツテ居テ、尙ホ三割四割ノ配當ヲシテ居ルカラ餘程會社ノ方ニモ收入ガアルト考ヘマス、石油ノ方ニ全力ヲ注グバ、精製燈油ノ方モ十分發達ヲシヤウガ、他ノ礦山ノ探掘ヤ何カ外ノ方面ニ力ヲ入レテ居ルヤウナコトデアルカラ、石油業ハ左程是カラ發達スル見込ハナイト思フガ、此點ニ付テ最モ私

ノ考ヘテ置カナケレバナラヌト云フコトハ、内地ノ石油業者ハ所謂原油ナルモノヲ地中カラ掘出ス、生産費ハ幾何デアラヤト云フ問題デアリマス、内地ノ石油業者ガ地中カラ原油ヲ汲出シテ、其需用ガ非常ニ高ク掛ルトスレバ、ソレヨリモ外國ヨリ原油ヲ輸入スル方ガ非常ニ安イト云フナレバ、是ハ少シク考ヘナケレバナラヌ問題デアルガ、實際ヲ調ベテ見マスルト決シテサウデハナイ、越後アタリデ掘出ス生産費ト云フモノハ、一石ニ付テ三圓ヨリ以上ニ登ッテハ居ルマイト思ヒマス、長岡アタリノ建直ヲ見マスルト高イガ、是ハ生産費デハナイ、井戸カラ掘ッテ原油トシテ社會ニ出ス迄ノ費用ガ生産費デアル、此費用ハ僅少デアアル、外國カラ輸入スル原油ハ先デ契約シテモ段々相場ガ高クナル、其上ニ向フデ契約シテ此地ヘ持ッテ來ルニハ、航海ノ危險ヲ冒サナケレバナラヌ、又海關稅モ拂ハナケレバナラヌ、横濱デ海關稅ヲ拂ッテ陸揚シテ、其時ニ始メテ原油トシテ内地ノ輸入業者ノ手ニ這入ル譯デアアルカラ、大キク申スト横濱ニ抗口ヲ明ケテ原油ヲ掘ッタト見レバ支ナイ、運賃トカ契約トカ海關稅トカ云フモノヲ、内地ノ人ガ原油一石ノ採掘ノ生産費ト見レバ、一向差支ナイ、大キナ石油坑區ガアツテ坑口ガ横濱ニアツテ、其處ニハ掘出ス費用高即チ原油輸入業者ガ横濱ニハ原油ヲ掘出シタ其金額ガ、内地ノ石油業者ノ原油生産費ヨリモ少イト云フコトナレバ、或ハ其程度マデ關稅ヲ増スト云フコトハ必要カモ知レヌガ、サモナケレバ内地ノ石油業者ガ別段競争シテ、内地ノ石油業者ガ負ケルト云フコトハナイ、然ラバ別段ニ稅ヲ増ス必要ハナカラウト思フ、其邊ノ計算ハ出來テ居ルヤ否ヤト云フコトヲ御尋致シマス、御説明ニモアリマシタ通り、原油ヲ輸入シテ燈油ヲ造リ、ソレカラ重油ガ出來ル、「ピッチ」ガ出來ルト云フヤウナコトニナリマス、日本ノ工業會社ニ影響ヲ及ボスコトハ非常ナモノデ、是ガタメニ各種ノ動力ヲ低價ニ供給スルコトガ出來、非常ニ私ハ日本ノ産業ヲ助ケルダラウト思フ、然ルニ今日ノ有様デハ越後地方ヨリ供給スル重油ト云フモノハ、非常ニ量ガ少クシテ、且確實デナイ、是故ニ信越線アタリデハ重油ヲ使ツタガ罷メテシマツタ、又海軍省アタリデモ薩摩トカ香取トカデハ重油ヲ使ッテ見タイト云フコトモアツダガ、之モ使ッテ見ナイト云フコトデ、其邊ハ餘程研究シナケレバナラヌ問題デアラウト思ヒマス、要スルニ原油輸入業者ガ横濱ニ原油ヲ揚ゲルト云フ時期ハ、丁度日本ノ營業者ガ井戸ヲ掘ッテ、原油ヲ掘リ出シタト云フ時期ト同ジデアアルカラ、其時期ニ於テ費ストコロノ兩者ノ費用ハ幾ラデアアルカト云フコトヲ、御尋致シマス

○政府委員(櫻井鐵太郎君) 初ノ御質問ノ趣意ハ少シムツカシクツテ、十分了解致シ兼ねマシタガ、斯ウ云フ御尋デアツタト私ニハ聞ヘマシタ、内地ノ石油業ナルモノガ將來發達ノ見込ガナイトシテ、假ニソレガ全部廢滅シタトシテ……

○神崎東藏君 サウデハナイ、内地ノ石油業者ガ假ニ今日ノ儘トスル、或ハモ少シ進歩シテモ構ハヌガ、今外國カラ這入ッテ來ル燈油ト云フモノヲ、原油輸入者ガ輸入シテ日本デ精製シテ、其精製シタ燈油ニ依テ外國ノ燈油ヲ悉ク驅逐シタト云フ曉ニハ、國庫ノ收入ハドウナルカト云フコトヲ御尋シタノデス、私ノ考フルトコロデハ、海關稅ハ少シ減ルカモ知レヌガ、所得稅モアリ營業稅モアル、モウ一ツハ「プリツキ」ノ海關稅モ拂フカラ、結局計算ノ上ニ於テハ其方ガ餘計ニナルト云フ主張ナデス

○政府委員(櫻井鐵太郎君) 分リマシタ、唯今説明ノ如ク假定シテ計算致シテ見マスルト、四十年ニ七千万「ガルロン」輸入シテ居リマス、其價格ガ千四百三十二萬圓デア

リマシテ、此税金が六百七十三万五千九百圓、斯ウナッテ居リマス、此石油ヲ這入リ
マスル七千万「ガロン」ガ原油ノ儘ニ這入ッテ來ルトシテ、原油ヲ幾ノ入レテ七
千万「ガロン」ノ燈油ガ出來ルカ、斯ウ云フト原油ノ小賣ガ四十五「パーセント」ト假定
シテ——亞米利加アタリカラ這入リマシテ、イロ／＼「パーセント」ハ違ヒマスガ、假ニ四
十五「パーセント」トシテ見マス、原油ヲ入レテ四十五「パーセント」ノ燈油ガ出來ルトシ
テ、其ノ燈油デ七千万「ガロン」ヲ供給スルト、税金ガ減ルコト五百万圓バカリデアリマス、
原油ノ輸入ガ六百六十九万圓斯ウ云フコトニナッテ居リマス、其差即チ五百万圓バカリノ
關稅ガ減リマス、ソレカラ「ブリッギ」云々ト云フコトハチヨット今手許ニ書類ヲ持ッテ居マセ
ヌ、所得稅、營業稅モ果シテ七千万「ガロン」ヲ内地テ製造スルニハ、ドノ位ノ工場
デドノ位ノ資本デアルカト云フ計算カラ往キマセヌト、其ノ算出ハ出來マセヌカラ、今此
處デ御答スルコトハチヨット出來兼ネマスガ、ソレハ頗ル將來ノ豫想ニ屬スルコトダラウト
思ヒマス、假ニ此七千万「ガロン」ノ燈油ヲ内地テ製造スルニハ、凡ソドレ程ノ原油ヲ
輸入スルカ、ソレニハドノ位ノ船ヲ使フカト云フコトカラ、ドノ位ノ工場ヲ持タナケレバナ
スカ、是ハ餘程想像デ計算ヲシナケレバナラヌコト、思ヒマスノデ、餘リ想像ニ涉ル計算
ハ出サナカッタデアリマス、ソレカラ第二ノ御問ノ内外ノ原油ノ價格ハドウカ……

○神崎東藏君 生産費デス

○政府委員(櫻井鐵太郎君) 生産費……生産費デ宜シウゴザイマスガ、外國ノ原
油申シマス、是ハ亞米利加カラ輸入シタデアリマスガ、四十年十月ノモノヲ見マス
ト、無論ニハ運賃保險料一切ガ加ハッテ橫濱ニ揚ガルト時ノ値打デアリマス、即チ御尋
ノ通り橫濱ニ石油ノ坑口ガアッテ其處カラ出タモノ見ラレバ價格デスガ、一石二圓五
十九錢二厘トナッテ居リマス、之ニ二割ノ税金ト致シマス、五十一錢八厘デスカラ、是
ガ加ハリマス、三圓十錢バカリト云フモノガ亞米利加ノ原油ノ橫濱ニ於ケル値段デス、
之ヲ生産費ト見テ宜カラウト思ヒマス、ソレカラ内地ノ原油、是ハ各地品質モ異ルニ依
リマシテイロ／＼差ガアリ一概ニ言ヘマセヌガ、品質ノ良イトコロハ一石九圓、ソレカラ

○神崎東藏君

ソレハ市價デセウ——相場ノ建値トハ違ヒマス、サウヂヤナイ、ソレデハ
私モウ一ツ御説明致シマセウ、唯今特ニ生産費ト云フコトヲ言フテ聞キマシタガ、越後デ
出來ル原油ト云フモノハ市場ニ決シテ販賣サレテ居ラス、日本ニハ石油坑採掘業者カ
ラ原油ヲ買ウテサウシテ油ヲ製造スル業者ト云フモノハ殆ド無イ、何處ノ會社デモ一方
デ石油坑ヲ持ッテ居テ採掘事業ヲ爲シテ、其採掘シタ——左ノ手デ、採掘シタ原油ヲ右
ノ手デ器械ニ掛ケテ製造スルト云フコトニナッテ居ル、故ニ其左ノ手デ採掘シタ右ノ手ニ
移ス時ノ費用ヲ聞イタデアリマス、成程長岡アタリデ、原油ヲ今度ハ幾ノ今度ハ幾ラ
ト云フ建値ハ出來マスガ、ソレハ製造油ガ騰ガル度ニ勝手ニ騰ゲテ居ルノデ、鑛山業ノ
方ノ收益ト油製造ノ方ノ收益ト兩方ヲ計算シナケレバナラヌカラ、帳面ノ上ニハサウ載ッ
テ居ルガ、會社ノ内部ニ入ッテ見レバ、井戸ヲ掘ッテ汲出スマデノ費用ト云フモノハ僅ナ
モノデアルガ、漫然ト九圓ニスルトカニ三圓ニスルトカニ考デ、サウシテ一方ニ於テハ橫濱
ニハ今三圓幾ラト云フ計算デアッタガ、サウ云フコトダト大變ナ間違デアリマス、尙其點
ニ就テハ能ク會社ノ生産表等ヲ見テ、當業者ニ付テ御取調ヲ願ヒタイ希望デアリマス

○東尾平太郎君 政府委員ノ御答辯デハ、精製油ハ殆ド從價稅五割ニ當ルガ、之
ニ比準シテ原油ニモ課稅スルト云フヤウデゴザイマスガ、原料ニシテ見マス、一石三圓五
十九錢二厘サウスルト、十「ガロン」ニ付テ五十錢程掛カル譯デス、五十錢ニ四十三
錢ノ課稅ヲスルト八割以上ニナルガ、精製油ヲ五割ニシテ原料ニ限ッテ八割モ課ケルノハ
過當デアリマセヌカ、殆ド禁止稅デハナイカト思フ、何故ニサウデス、八割ハ殆ド他ニ
無イ様ニ思ヒマスガ、是ハ如何ナ理由デアリマスカ

○政府委員(櫻井鐵太郎君)

東尾君ノ御尋デアリマスガ、私ノ計算デハ八割トハナ
ラヌ、六割——イヤ約八割デアリマス、ソレハ從價ノ割カラ計算ヲ致シマス、却テ精製
品ヨリ原料品ノ割ガ高イト云フコトニナリマスガ、關稅率ヲ定メマスノ原油ノ如キハ內
國ニ生産サレルトコロノモノデアッテ、原油ノ產出ハ先刻申上ゲマシタ通り、三分ノ一ハ
燈油トナッテ居ルト云フコトハ、ツマリ先刻神崎君ノ問ニ答ヘタ通り外國カラ橫濱ニ着イ
タ時ノ原油ノ値段ト、ソレト內國デドレ程原油ノ一石ガ手ニ這入ルカト云フ、其双
方ヲ大抵互角ノモノニシナケレバナラヌデアリマス

○日向輝武君

先刻來ヨリ詳細ノ御説明ガアッテ、此法律案提出ノ理由ヲ大ニ了解
シマシタガ、此ニ於テ私ハ大體ニ對スル一二ノ質問ヲ試ミマシテ、政府委員ノ明確ナル
御答辯ヲ煩シタイト思ヒマス、我國ノ石油原油ノ產出額ハ過去三十箇年間、年々ドウ
云フ統計ヲ示シテ居リマス、此點ガ第一、是ハ内地ノ産業ヲ保護シテ外國ノ輸
入物ニ課稅スル上ニ於テ、議論ヲ定メル上ニ付テ重要ナル點デアリマス、我國ノ石油ハ最
近十箇年間ニ著シク發達シテ居リマスガ、此石油ト云フモノヲ見ルコトニナリマシテ以
來、三十箇年間詳細ナル數字ヲ一ツ調ベテ見タイト思ヒマス、第二ハ外國カラ輸入ス
ルトコロノ原料品ヲ、無稅若クハ輕少ナル稅率ヲ課シマシテ、内地ノ工業ノ發達ヲ圖ル
ト云フコトハ當然デアリマス、特ニ此石油ニハ割ノ重稅ヲ課スルト云フ理由如何、是
ガ第二、第三ハ我國ニ輸入シマス、石油ノ爲メニ年々千七百圓ノ金貨ヲ外國
ニ奪ヒ去ラレ、之ヲ防グタメニ石油ヲ輸入シテ我國デ石油ヲ製造シタレバ、國家經
濟上ニ於テ極メテ重要ト思ヒマスガ、之ニ對スル政府ノ所見ハ如何、第四ハ原油輸入
ノ結果輸入稅ヨリ生ズルトコロノ政府ノ收入ハ、大凡ソ三百五十萬圓ヲ減シマスガ、
併ナガラ一方ニ千七百圓ノ正貨流出ヲ防グ内地ノ工業ヲ振作シマス、故ニ大藏省
ハ唯目前ノ關稅ノ收入ト云フ點ニシテ御着目ニナッテ居リマスガ、此千七百圓ヲ防グ
ノト、三百四十五萬圓ノ關稅ヲ損スルノトハ、國民ノ利害國家ノ經濟上ニ於テドウ云フ
計算ヲ生ズルカト云フ、此四點ニ付テ詳細ノ御説明ヲ煩シタイト思ヒマス

○政府委員(櫻井鐵太郎君)

第一ノ御尋ハ、日本ノ石油事業ノ發達ノ狀況ト云フ
御尋デアリマスガ、日本全國ノ關稅ハ致シマセヌガ、ツマリ石油產地ノ狀況ヲ申上ゲマスレ
バ大體ノコトガ分ラウト思ヒマス、三十一年ニ新潟縣ノ燈油ノ產出額ガ十五萬ソレカ
ラ……

○日向輝武君

過去三十箇年間ノ……
三十箇年ト云フハ何デスカラ、三十一年カラ申上ゲマ
ス、此處ニ表ヲ持ッテ居リマスカラ——ソレデハ二十二年頃カラノモアリマスガ、餘リ古イ
ノニナリマス……

○政府委員(櫻井鐵太郎君)

三十箇年ト云フハ何デスカラ、三十一年カラ申上ゲマ
ス、此處ニ表ヲ持ッテ居リマスカラ——ソレデハ二十二年頃カラノモアリマスガ、餘リ古イ
ノニナリマス……

○日向輝武君 比較シテ見ルノデスカラ成ルベク永イノ見タイノデス

○政府委員(櫻井鐵太郎君) 二十二年カラノ表デゴザイマス

○委員長(野田卯太郎君) 其表ハアトテ御廻シテ戴キタウゴザイマス

○政府委員(櫻井鐵太郎君) 宜シウゴザイマス、ツレカラ第二ノ御問ノ原油ノ輸入ヲ

爲シテ内地デ石油ヲ造リ、石油ヲ輸入スルコトヲ止シタナレバ、正貨ヲ外國ニ拂ハズシテ

濟ムノデアルガ、サウ云フ策ハ善クハナイカト思フガト云フ御尋ノヤウデアリマスガ、吾々ハ

内地ニ此製造業ノ起ルト云フコトハ決シテハ惡ルイトハ思ハナイ、外國ノ原油ヲ入レ

マシテ内地ニ工業ヲ起シマスニハ、御説ノ通り外國カラ高イ物ヲ買フ割合ニ、廉イ物ヲ

造テ濟ムト云フコトハ善イコトデアリマス、ツレバ惡ルイトハ吾々ハ考ヘテハ居リマセヌガ、

此原油ノ稅率ヲ置キマシテモ、決シテ是デ原油ヲ以テアル内地ノ精製業ト云フモノハ成

立セヌト云フコトハハナルマイ、雙方相俟テ行ハレルト云フ考デアリマスカラ、此稅率ヲ

上ゲタ、メニ、最早原油ノ輸入ガナイト云フコトハ考ヘテ居リマセヌ、ツレカラ又輸入稅

ガ減ルノガ困ルト云フノハ、是亦今ノ正貨ノ問題ト關係シテ居ルコト、思ヒマスガ、政府

ノ考デハ、兎ニ角輸入稅ノ減ルコトハドウモ棄テ、置ケナイコトデアッテ、是ハ相當ノ權衡

ヲ取ツテ、是マデ得テ居ル輸入稅ヲ收補シテ行カナレバナラヌト云フ考ヲ有テ居リマス、

餘リ此原油ヲ輸入シテ、内地デ精製業ヲヤレバ内地ノ起業ニ影響ヲ及ボス所ガ多クナ

ル、ツレ等ノ點カラ研究スレバドウモ關係ヲ有テ居リマセウト思ヒマスガ、サウ云フ非

常ニ遠クノ關係ヲ有テ利害ヲドウコウト云フコトデアルト、殆ド吾々ハ可否ヲ言ハレヌト

云フコトニ結局ナルト思ヒマス、其計算ガ確實ナル基礎ヲ以テ計算ガ出來マスレバ宜シ

イガ、種々ノ想像ノ事實ニ基イテ計算スルハ、殆ド私ハ出來ナイコトダラウト思ヒマス

○駒林廣運君 政府委員ノ御見込ヲ伺テ置キマスガ、此案ヲ見マシタトコロデハ、私

モ一寸東尾君ノ御質問ノ如ク二十二議會ダト思フテ居リマスガ、其時ニ議シタ關稅ノ

主義ハ破壞サレタモノト考ヘタ、然ルニ政府委員ノ御説明ニ依ルト、ツレハ破壞シテ居

ガ、御説ノ如ク砂糖ノ如キヤハリ今日デハ澤山ノ外國糖ガ日本ニ這入ッテ居リマスケレ

ドモ、砂糖ハ臺灣ト云ヒ沖繩ト云ヒ内地ニ於キマシテモ、マダ或部分ニ於テハ相當ノ方

法ヲ以テ發達ヲ計レバ、殖エテ行ク見込ガアルト云フコトデ、内地ニ於テハ種々獎勵保

護ヲ加ヘラレテ現今行ハレテ居ル、又精製糖ニ就テモ關稅ハ協定ニカ、ツレ居ルガ、協定

ニカ、ツレ居ラヌ粗糖ノ如キハ、ヤハリ此内地ニ將來製糖業ガ伸ビテ往ク見込ガアルガ、

併シ今日直ク外國糖ニ代ヘル譯ニ往カナイカラ、内地ノ生產業ノ上カラ外國カラ這入

ル砂糖ハ關稅ヲ以テ鈞合ヲ取ッテ、甚ダシク外國糖ノタメニ内地ノ砂糖ガ發達ヲ妨ケラ

レナイヤウナ主義ニ依ッテ、今日砂糖ノ海關稅ハ定テ居ルト思ヒマス、サウ云フ關係デ

アリマスカラ、原油ニ付テモ、原油ハ若シ將來日本ノ原油ガ見込ガナイ、幾ラヤツモ擴

張ハ出來ナイ、產額モ殖エヌト云フサウ云フ見込ガ付ケバ、目的ノ考ヲ違ヘナケレバナラ

ヌガ、私ノ考デハ今日ノ如ク二分ノ一——二分ノ一ダケ供給スルニ止マル、將來伸ビナ

イ見込ノ無イモノトハ考ヘナイ、其場合ニ相當ノ保護ヲシテ——保護ト云フト語弊ガ

アルカ知レヌガ、外國產ノタメニ壓倒サレルコトナクシテ産業ガ進ンデ往タナラバ、伸ビテ

往ク見込ガアル、斯ウ云フ考ヲ有テ居リマスカラ、ヤハリ今日成立ッテ居ル內國石油業

ハ外國ノ油ニ對シテ、對抗シテ往ケルダケノ程度ニ据ヘテ置カナケレバナラヌト思ヒマス

○駒林廣運君 砂糖ハ如何デスカ、御見込ハナイデスカ

○政府委員(櫻井鐵太郎君) 砂糖ニ就テモ見込ガアルト云フテ宜シト思ヒマス、ツマ

リ見込ガアルト云フ御意見カラ來ルト、見込ガナイト云フ御意見カラ來ルト、違ガア

ルト思フノデアリマス

○委員長(野田卯太郎君) 今日ハ是デ閉會致シマス

午前十一時五十九分散會